

花瑛塾

神苑の決意

一つの時代の終わりと、新しい始まりの間で問い直す

象徴天皇と日本国憲法

神苑の決意 主筆 木川 智

本号の内容

【巻頭言】一つの時代の終わりと、新しい始まりの間で問い直す 象徴天皇と日本国憲法（木川智）：1 / 【連載】アジア放浪記―歴史を掘り起こし日本を見る 台湾編⑦（仲村之菊）：7 / 【連載】『倭姫命世記』を読み解く 伊勢神宮と斎王⑩（柳凜）：8 / 平成三〇年一月活動報告：10 / 【談話室】「心ヲ傷ルコトナカレ」―新嘗祭の夜の天照大神の神教え（木川智）：23 / お知らせ・編集後記：24

1部 1000円
(別途送料160円)

【巻頭言】 新年明けましておめでとございます。

昨年は花瑛塾の活動および本誌の発行にご理解とご支援をいただきましたこと、心より御礼申し上げます。

花瑛塾も昨年一月一六日で結成二周年を迎えました。また本紙は本年四月発行号で通算三〇号となります。まだまだわが力の非力を痛感することばかりですが、本年も塾生みな全力で活動を行っていく決意ですので、引き続きご指導ご鞭撻をいただきました。よろしくお願い申し上げます。

■ 天皇誕生日のお言葉を拝聴して

昨年一月二三日、天皇陛下は八五歳の誕生日を迎えられた。花瑛塾も皇居で行われた天皇誕生日一般参賀に参列しお祝い申し上げますとともに、天長祭に参列し天皇陛下のご安泰をお祈りするなどしたが、天皇誕生日に先立つ同月二〇日の記者との会見での天皇陛下のお言葉には、強く心をうたれた。天皇陛下のお言葉は「天皇陛下として迎えられる

最後の誕生日となりました。陛下が皇后さまとともに歩まれてきた日々はまもなく区切りを迎え、皇室は新たな世代が担っていくこととなります。現在のご心境とともに、いま国民に伝えたいことをお聞かせ下さい」との宮内記者会による代表質問に対するお答えとして発せられたものである。長文ではあるが、以下、宮内庁ホームページより転載したい。

※

この一年を振り返るとき、例年にも増して多かつた災害のことは忘れられません。集中豪雨、地